



# モエワ★カムイ

NO.

# 53

●モエワ・カムイとはアイヌ語で「エゾクヌチ」のことです。

DECEMBER 1998

あさひやまどうぶつえんニュース  
ASAHIYAMA ZOO NEWS

もくじ

シリーズ

「ぼくは動物大使」

その14 ヒグマ 2.3

特集

もうじゅう館 4.5

飼育研究レポート 6

動物園事情

動物病院 VET ニュース 7

クイズ

できごと

飼育動物数

編集後記 8

ヒグマ

*Ursus arctos*

ぼくは、  
動物大使  
その14 森の支配者 ヒグマ

# ヒグマ

*Ursus arctos*

北アメリカ、ヨーロッパ、アジア北部、北海道に生息。クマ科の中で最も分布域が広い。森林開発による環境破壊や、乱獲により、個体数は急激に減少し、ヨーロッパではすでに絶滅してしまった地域もある。

最大亜種はアラスカ・コディアック島に住むコディアックヒグマで体重700kg以上の巨大グマもいる。

## 旭山ベアーズ



オス クマゾー 84年生まれ 14才  
落ち着きがなく、いつもチョロチョロしている。



メス アサコ 68年生まれ 30才  
開園の時からいるまさに旭山の主。もう相当なおばあちゃんグマ。

(12月15日 永眠しました。)

### 目・耳

小さい。嗅覚に比べると視覚・聴覚は劣る。

### 鼻

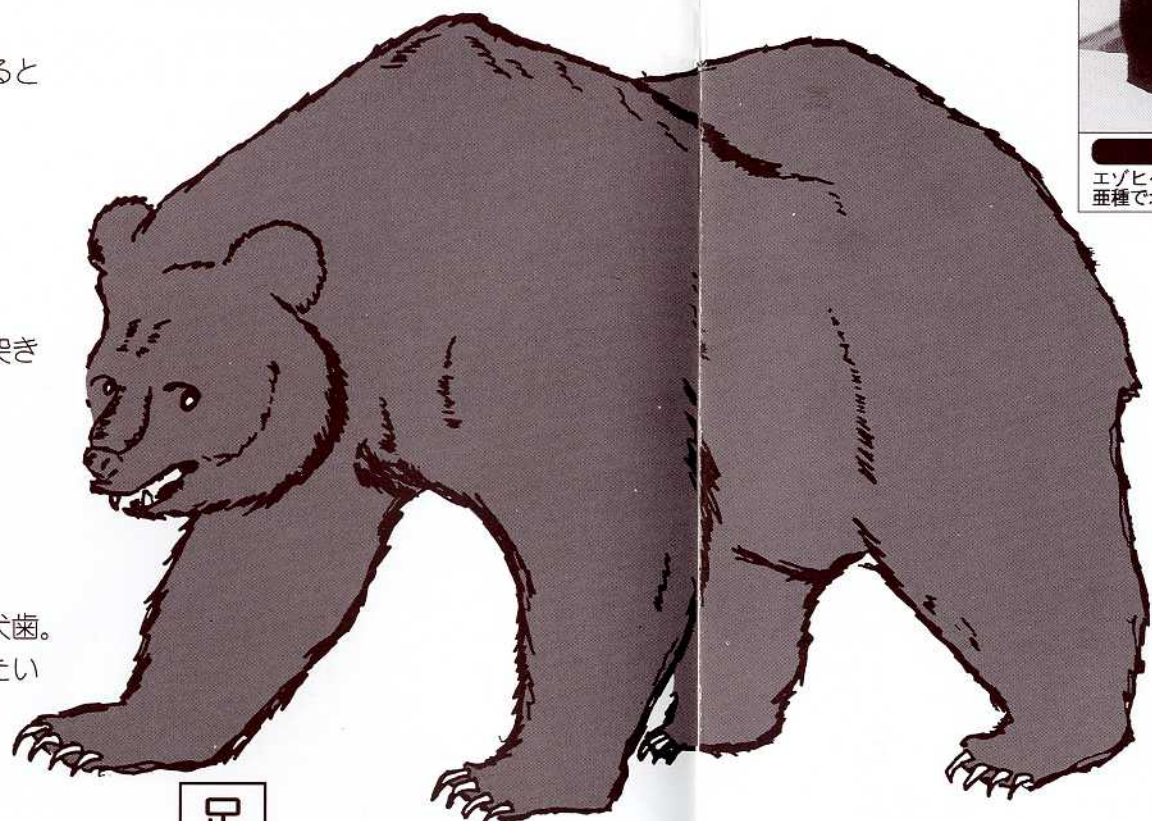
敏感な嗅覚。  
鼻づらは長く、前に突き出ている。  
鼻先に毛はない。

### 歯

獲物を捕らえる鋭い犬歯。  
植物をすりつぶす平たい臼歯。

### 体

オスは体長約2m  
体重200~250kg  
メスはオスより少し小さい。



### 足

短いが太くて強力。  
長く鋭い爪を持つ。  
周辺を警戒する時や威嚇するときには2本足で立ち上がる。

## 共生

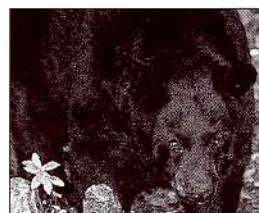
その昔、北海道の先住民であるアイヌの人々は、ヒグマは「森の神」(キムンカムイ)としてあがめられ、明治以降の開拓者には、農作物や家畜を襲う「害獣」として憎まれてきました。現在、狩猟により、その数は減少し、また生息環境の悪化により、ヒグマが暮らせる森が失われています。「ヒグマが人家近くに現れた！」なんてニュースが年に一度は耳に飛び込みます。「神か、害獣か」この追いつめられたヒグマとの「共生の道」を歩めるかどうか、今、北海道の人々は試されています。

## クマの仲間

2属7種に分類され、日本には北海道にすむエゾヒグマ、本州、四国、九州(絶滅?)にすむニホンツキノワグマがいます。



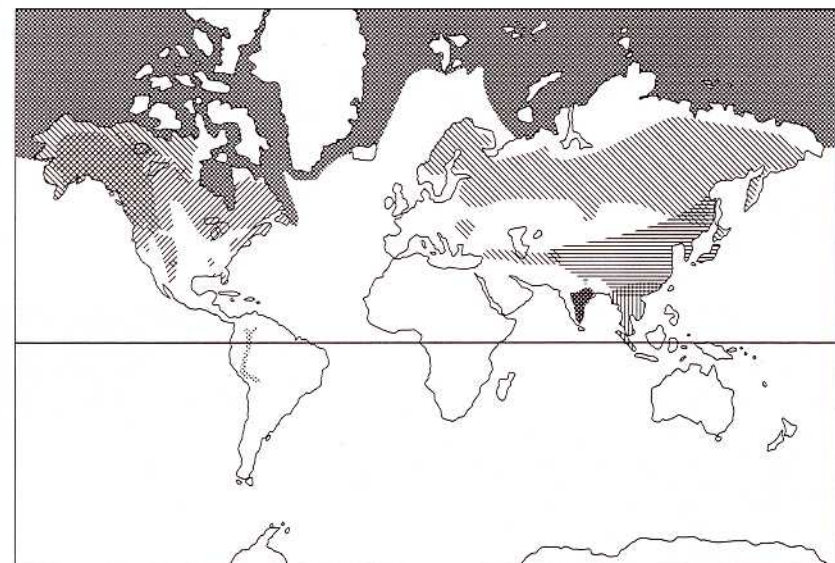
ホッキョクグマ  
世界最大の陸生食肉動物



アメリカクロクマ  
ヒグマより小さい。  
18亜種に分ける学者もいる。



ヒグマ  
エゾヒグマは、ヒグマの1亜種で北海道に生息。



メガネグマ アメリカクロクマ ヒグマ ホッキョクグマ ツキノワグマ ナマケグマ マレーグマ

### 毛

長く荒い  
黒または茶かっ色

### 尾

7~12cmと短い

### 生活

群れは作らず単独か母子で



メガネグマ  
唯一南半球にすむクマ。  
目のまわりのメガネ模様の特徴。



ナマケグマ  
長く曲がった爪と自由に動く鼻づらで、木の中や地中の虫を食べる。



マレーグマ  
最も小さいクマ。  
長い舌でシロアリをなめとる。



ツキノワグマ  
胸の白い三日月模様が目立つ。  
日本では本州・四国・九州?に生息。

(写真 成美堂出版 世界の動物より)

### 歩き方

ヒトのように「かかと」をつけて歩く(蹠行性)。  
走ればヒトより速い。

### 食性

雑食性。果物や草が中心だが、昆虫や小動物、サケなど何でも食べる。

## 冬ごもり

ヒグマは、冬季の寒さをしのぐため、地中の穴に入って冬ごもりします。食物が豊富にある秋にたくさん食べ、体脂肪を蓄えて11月下旬から12月上旬に冬ごもりに入ります。冬ごもり中は飲まず食わずの絶食状態で低体温、低代謝。また、ぼうこうにたまった水分を再吸収し尿さえ排出されません。

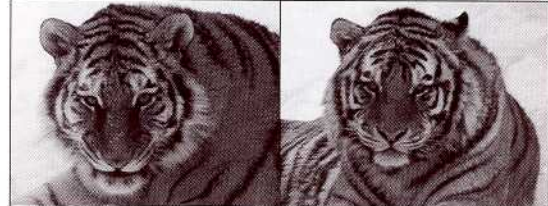
冬ごもり中といっても生理的には活動しており、オスはこの間に精子形成が始まります。妊娠したメスは、1月中旬~2月上旬ごろ穴の中で2~3頭の仔を出産し、哺育をします。生まれたばかりの仔グマは、体重わずか350~400gで目も開かず、体毛もほとんど生えてなく、実に弱々しいのですが、母グマから濃厚な乳汁を与えられ急激に発育し、穴から出る5月上旬には約5kgに成長します。ちなみに動物園のクマは冬ごもりしません。暖かい部屋とおいしい餌が毎日もらえるので、冬ごもりする必要がないのです。

# 特集「もうじゅう館」

北海道初の本格的生態展示を取り入れた「もうじゅう館」。今回は施設と、この主たちを紹介しましょう。

## ● アムールトラ

トラは深い森林で自分の気配を殺して、ひっそりと生活しています。ネコ科最大のアムールトラは、おとなのオスで体重300kgにもなります。生息地の中国・ロシアのアムール川・ウスリー川流域は一年を通して旭川よりも寒い地域です。野生での生息数はわずかに200頭前後で、このままでは絶滅してしまうでしょう。

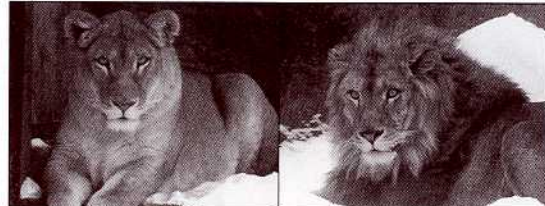


メス ノン 96年4月1日生まれ  
オス いっちゃん 96年8月1日生まれ

いっちゃんはもうじゅう館一の愛きょう者、そしてもうじゅう館一の巨体、体重は推定250kgもあります。

## ● ライオン

ライオンはネコ科動物の中で唯一群れを作る社会性の強い動物です。開けたサバンナで生活する大型のライオンにとって群れ（プライド）を作り生活することが獲物を捕るうえでも、子孫を残すうえでも、最も効率がいいのです。



メス レイラ 95年生まれ  
オス ライラ 95年生まれ

とてもシャイなレイラと、いまいち性格のわからないライラ。来年のオープンがかわいい赤ちゃんもいっしょだよ！

## ● アムールヒョウ

ヒョウの最大の亜種で大人のオスで70kgにもなります。生息地は中国・ロシアのアムール川流域で、一年を通して旭川よりも寒い地域です。自然環境は旭川周辺の森林に似た針葉樹と広葉樹の混合林です。野生での生息数は20頭前後と言われ絶滅寸前です。

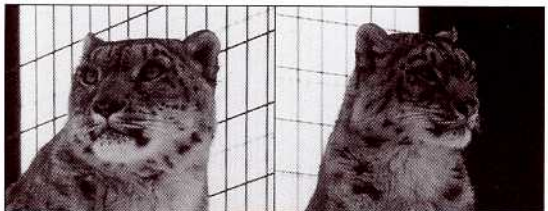


メス エイラ 87年7月2日生まれ  
オス ビック 86年12月2日生まれ  
メス(仔) こと 96年7月29日生まれ

エイラを見た人はみな「もうすぐおめでただだね」と言うけど、ただのデブちゃんです。前の獣舎は部屋が2つしかなく、ひとつはビックの部屋だったので「エイラ」と「こと」はいつもいっしょでした。2頭分のエサをあげるとエイラが多く食べてしまうので、いつも多めにエサを与えた結果が今の姿です。「もうじゅう館」ではみんな個室なので現在ダイエット中です。

## ● ユキヒョウ

ヒマラヤなど中央アジアの標高1800～5500メートルの山岳地帯に生息します。岩が露出した、けわしい環境です。獲物が少ないため1頭のなわばりは100km<sup>2</sup>にもなることがあります。用心深く夜行性の強いユキヒョウは、人が容易に入っていけない環境に生息しており、詳しい生態はほとんどわかっていません。



メス プリン 91年4月16日生まれ  
オス ゴルビー 91年4月20日生まれ

臆病な性格で、いつも体を低くしてまわりを警戒しています。でも運動能力は「もうじゅう館」一です。早く新しい場所になって岩棚を駆け回って欲しいな。

## ● エゾヒグマ

クマ科の動物は世界に7種類います。このうちヒグマ、ホッキョクグマは世界最大の陸生食肉類です。ヒグマはグリズリー、あるいはハイログマとも呼ばれています。アラスカのコディアックグマ（ヒグマの亜種）では体重500kgにもなる個体があります。エゾヒグマは北アメリカからヨーロッパに広く分布するヒグマの一亜種になり、北海道に生息しています。体重は大人のオスで200～250kgくらいです。



メス アサコ 68年生まれ  
オス クマソー 84年生まれ

開園当初からいたメスのアサコ（30才）は12月15日残念ながら死亡しました。「もうじゅう館」でもっともっと長生きしてほしいのですが、本当に残念でしかたありません。

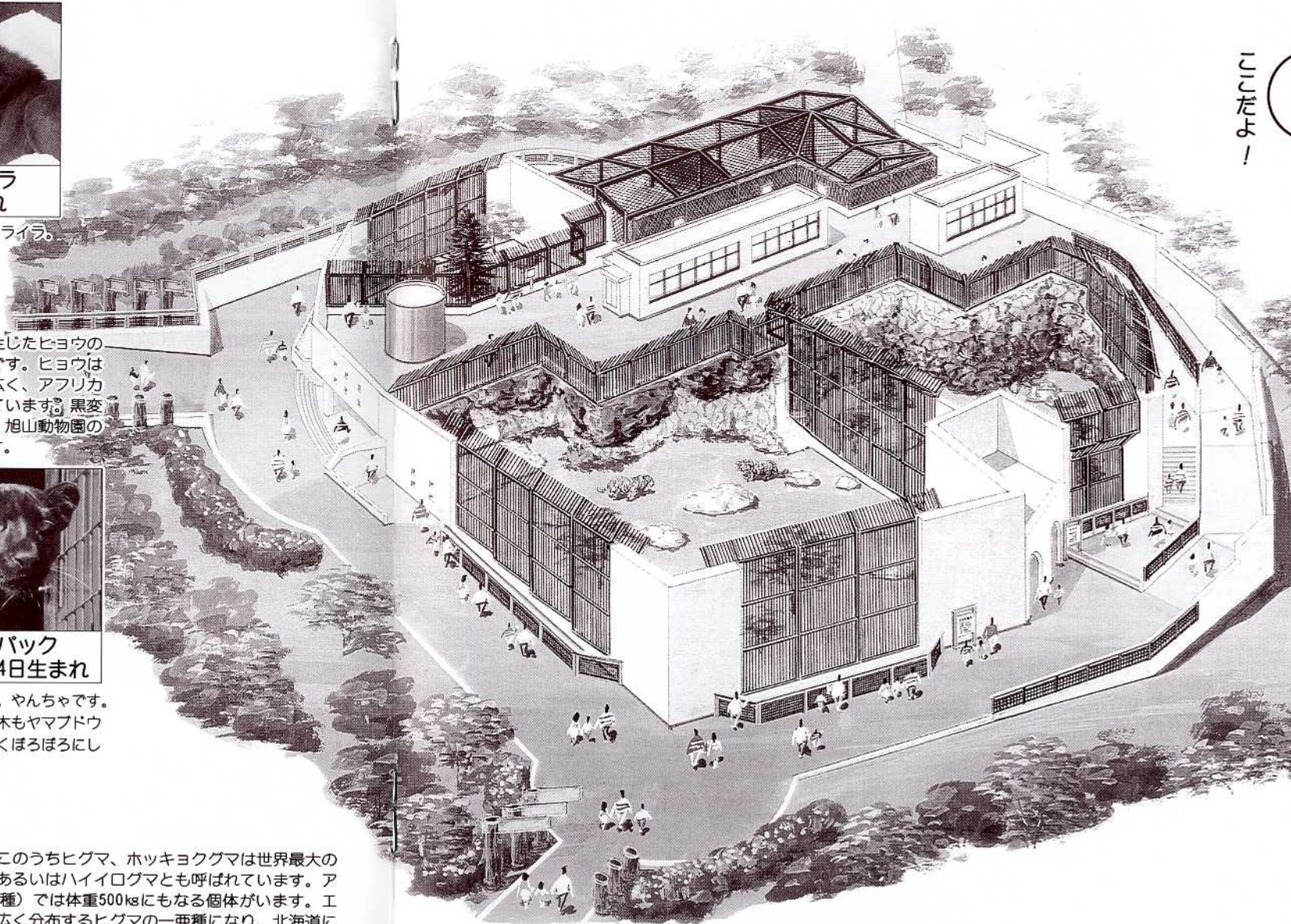
## ● エゾヒグマ

層雲峡の柱状節理を表現しました。岩は愛別町の山から持ってきました。



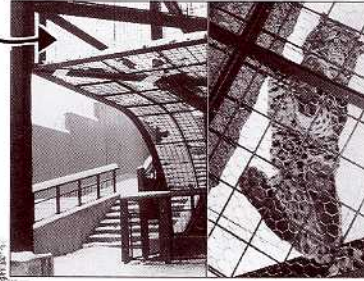
## ● クロヒョウ・アムールヒョウ・ユキヒョウ

彼らは高い場所が好き。岩棚や木の上に登れるよう工夫しました。やはりそれぞれの生息環境を再現しています。



## ● ドーム

アムールヒョウのビックのお気に入りスポット。見上げればそこにビックが…



## ● ライオン

アフリカの草原を表現しました。赤茶けた岩にニセアカシアの木、通称「お立ち台」の岩山も特注でこだわってみました。



## ● ビューポイント

ガラス越しに見えるトラとライオンは迫力満点



## ● ビューポイント

ガラス越しにヒグマとトラの水浴びがみられる。らせん階段を上れば屋上。



## ● アムールトラ

混合樹林の森林を表現しました。アカエゾマツにナナカマド、地表は落ち葉で覆ってみました。





## 飼育研究レポート

ととりの村は、旧水禽舎全体を巨大なネットで覆い、水鳥たちのより自然な生活を見せようことを目的に、1997年秋にオープンしました。ネットで覆われた面積は3000㎡、最大の高さは14mもあり日本でも有数の施設です。「ととり」とは「今まで自由に飛べなかった鳥（とり）が飛べるようになった。本来の鳥（とり）になった」という意味で名付けられました。

この施設ができる前までは、皆さんに「どうしてカモたちは逃げないの？」とよく聞かれたものです。答は簡単です。実は風切羽を切っていたので飛べなかったのです。ととりの村が完成し羽を取り戻した鳥たちは躍動感に満ち輝いて見えます。カモが飛び、サギが舞い、潜水ガモが水に潜るなど、鳥たちのいろいろな仕草が見られ、とても良い雰囲気になりました。本来鳥は、空を飛んではじめて鳥であり（おっと飛べない鳥もいますね）優雅に空を舞う姿を見ると何かあこがれさを感じます。

人の流れも変わり入園した人のほとんどがこの施設を通り、また施設内にとどまる時間も今までよりもずっと長くなったように思います。また、通路に設置してある双眼鏡で熱心にカモを観察している人もよく見られました。

オープン時には、札幌市円山動物園、富山市ファミリーパーク、東京都井の頭自然文化園などの協力を得て、25種160羽のガンカモ類と3種8羽のサギ類でスタートしました。今年の春、繁殖のために大小30個ほどの巣箱を設置しました。大型のガン、ハクチョウは営巣行動が見られたら巣材を補充してやることで繁殖期を迎えました。

ガンやハクチョウは以前からこの場所で飼育展示されていましたが、小型のカモ類はととりの村に移ってから始めての繁殖期を迎えるため、どのくらい繁殖してくれるか楽しみであり、また心配もしていました。

カモ類ではマガモが圧倒的に優占種で、よい茂みや巣箱のほとんどを占拠してしまい、小型のカモたちは営巣場所の確保に苦労していました。それでも思っていたよりたくさんのカモが繁殖してくれ、マガモ・カルガモ・オカヨシガモ・ヒドリガモ・オナガガモ・オシドリ・キンクロハジロ・アカハシハジロなどがヒナをつれて泳ぎ回ってくれました。

大型のガン・ハクチョウはコブハクチョウが繁殖したのみでした。これは鳥の数に比べて営巣に適した陸面積が狭く、互いに干渉しあい落ち着いて営巣できなかったのが一番の原因だと思っています。

今後も鳥たちが快適に暮らせ、より多くの種が繁殖できるように、植栽をもっと工夫したり、巣箱の設置数を適切にするなどいろいろ改善していきたいと思っています。



## 動物園事情

### 動物園の役割 その2

動物園で何をみせようのか？もちろん動物を見せようのだが、動物の何をみせようのか？と言うことである。51号でふれたように、動物園では珍しい・風変わりな動物の姿を見せようことが主体の時代があった。つい最近まで、珍獣奇獣が動物園の売り物であった。マスコミ側も「この〇〇は、日本ではこの動物園にしかいません。大変珍しいものです」と言って報道することが多く、基本的にマスコミの姿勢は今も変わっていない。

日本で××動物園にしかない動物は、存在が難しくなる。その動物園で数10頭の個体を飼育し続け、継代していくのなら別だが、ふつうは数世代で近交劣化が現れ消滅してしまうことになる。従って、外国の動物園と協力して繁殖に取り組むか、野生から收容し続けなければならない。飼育下だけで解決するのであれば、いくつかの動物園が協力して飼育に取り組む必要がある。それならば国内で繁殖群をつくっておいた方が合理的だ。つまり、動物園にとって「うちの動物園にしかない」ことは意味のないことなのだ。

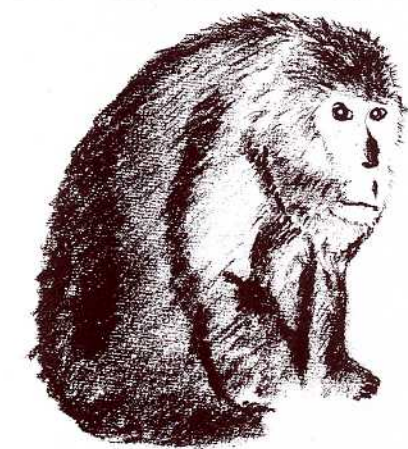
それでは、動物の珍しさを追求しないで、動物園は動物の何をみせればいいのか。動物園で新たに動物舎を整備するとき、展示手法として「生態（的）展示」を取り入れるところが多くなった。旭山動物園でも、9月にオープンした猛獣館は、生息環境をある程度再現した生態展示とすることになった。では、この動物舎で何をみせようというのか。姿形ばかりではなく、動物の生活をみせようということだ。そのためには、変化に富んだ施設が必要となるし、その行動を見せるための工夫も必要となる。また、テレビでは伝わらない、動物の迫力や臭いなども展示のポイントとなる。

動物の生活に見られる様々な行動の中からこそ、動物の特徴的な姿形の意味が理解できるはずである。動物たちは、決して意味もなく奇妙な形をしているわけではないのだから。動物園にやってきた人が、動物の生活を観察していく中で、自らそのことを発見してくれると、動物たちにとって環境の多様性が絶対に必要であることを理解してもらえよう。そのためには我々は飼育環境の多様性を図っていかなければならない。



## 動物病院VETニュース

タイワンザルのピーターは旭山動物園ではちょっとした有名人（いや、猿）なので、モユクカムイ読者の中には「あー、あいつ」と言う方もいるかもしれません。そのピーターがまた入院です。「また」というのも、彼はこれまで何度となく死に目にあっては奇跡の復活をとげているのです。何しろピーターは、動物園の開園当初からここにすんでいます。年齢はもう33歳。人間で言えば、これはとても換算できません。彼らは20年以上生きれば長寿な方で、30歳を越えることなど滅多にはないのです。まして33歳となると、無理に人間に当てはめればお化けのような年齢になってしまうでしょう。



この長い人生（いや、猿）、ピーターには様々なことが起こりました。4男3女をもうけ、長男次男が力親父を越えてしまったときにはそのつど殺されかけました。包皮で包皮（ペニスのまわりの皮です）を切除したこともありましたが、でも、何があっても立ち直ってきたのです。

ピーターがまた入院しました。今度は左足を足首から切断しました。末端の血行障害で足全部が腐ってしまったんです。腐るまでそんな素振りには全く見せずに頑張りものだから、発見も遅れました。麻酔さへ心配な年齢でしたが、目が覚めるなりいきなりバナナを食いだしたときにはびっくりしました。あまり動けない今でも手をふれば怒ります。彼の生きる力はものすごいものがある様に感じられます。年下のニンゲンの私は、サルピーターを尊敬してしまいます。

そう。ニンゲンはもっとよく野生動物を見つめれば、その生命力に圧倒されて尊敬してしまうと思います。それが彼らを大切にできる心につながるでしょう。ピーターが目の前で力説してくれています。

ピーターは今、サルアパートを離れ、小さくて暖かい部屋で余生を過ごしています。これからも元気に長生きして欲しいと、心から思います。

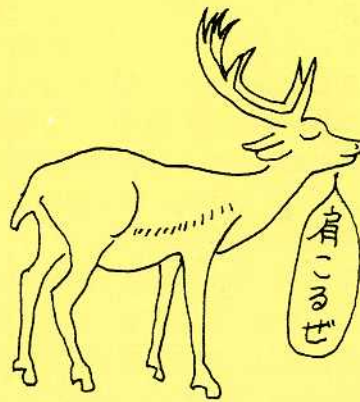
※11月29日ピーターは永眠しました。ピーター今まで本当にありがとう。忘れないよ。

# クイズ

今回のクイズは単純明快です。  
写真のワピチの角の重さ（1頭分）  
は何kgでしょうか？



1. 7kg
2. 14kg
3. 28kg



正解者の中から抽選  
で3名の方に旭山動物  
園特製エゾシカの角  
キーホルダーが当り  
ます。

応募方法はハガキに  
答と住所、氏名、年齢、  
電話番号を書いて、  
旭山動物園モユク・カ  
ムイ係までお送り下さい。  
応募×切

1999年2月28日

## できごと

7月26日～8月23日	トラ展
7月26日、8月9日、16日	親子動物教室
8月1～3日	動物園サマースクール
8月3日	チンパンジー出産 (8/9死亡)
8月9日	ニホンザル死亡
8月13日～16日	夜の動物園
8月28日	ワピチ(♂)死亡
9月30日～9月27日	鳴き虫展・帰化動物展
9月21日～22日	ライオン・ヒグマなど 6種13点の動物引っ越し
9月24日	クロヒョウ入園 (愛媛県とべ動物園より)
9月27日	「もうじゅう館」オープン
10月8日	カピバラ出産
10月20日	ホシガメ30頭 通産省より緊急保護
11月15日	ボルネオオランウータン 入園
11月29日	タイワンザルの ピーター死亡(推定33才)
12月1日	タンチョウ入園 (釧路市動物園)

## 飼育動物数

(11月30日現在)

哺乳類	53種	228点
鳥類	104種	573点
爬虫類	10種	65点
合計	167種	866点

## 編集後記

開園以来の建設となる本格的な  
動物舎「もうじゅう館」も無事  
オープンしました。構造としては、  
匂い、音、気配が伝わるオリを基  
本にしました。オリならではの展  
示にこだわった「もうじゅう館」  
ぜひご覧ください。今年は雪が降  
るのが早く、11月初旬に降った雪  
が解けることなく、今は積雪が40  
cmを越えました。久しぶりに厳し  
い冬になりそうです。来年はアル  
マゲドン、今のうちに楽しみまし  
ょう。

## モユク・カムイ No.53 平成10年12月31日

発行所 旭川市旭山動物園 〒078-8205 旭川市東旭川町倉沼 ☎0166-36-1104  
発行 小菅正夫  
編集委員 坂東元・中田真一・松島守・辻松淳二  
印刷 谷川印刷株式会社 〒070-0831 旭川市旭町1条4丁目 ☎0166-51-0653